

## 審議会等の会議の記録

会議の名称	令和7年度第3回伊勢崎市いせさきGX推進市民協議会
開催日時	令和8年2月27日(金) 10:00~11:20
開催場所	清掃リサイクルセンター21 管理棟3階 大会議室
出席者氏名	(委員) 松島会長、神部副会長、都丸委員、齋藤委員、洪澤委員 高橋委員 (伊勢崎市) 小林部長、塩島副部長、小此木GX推進課長 桑名課長補佐、谷川主査
傍聴人数	1人
会議の議題	<b>報告事項</b> (1) 伊勢崎市いせさきGX推進市民協議会 第1期(令和4年度から令和7年度まで)の活動の総括 について (2) 今年の夏の暑さ対策について <b>その他</b>
会議資料の内容	・次第 ・名簿 ・資料
会議における議事の経過及び発言の要旨	<b>1 開会</b>  <b>2 議事</b> <b>報告事項</b> (1) 伊勢崎市いせさきGX推進市民協議会 第1期(令和4年度から令和7年度まで)の活動の総括  会 長: 委員の皆様からご意見いただければと思います。  委 員: GXとは何か、初めはわかりませんでした。徐々に方向性も出てきた部分もあり、いくつか実行に移せそうなどころも見えてきました。もっと視野を広げて色々なことをやっていきたいです。  委 員: 任期満了まで早かったです。同時に何もできなかったという感想です。4年間を通じて自分たちにできることには限りがあると感じています。お金のかかることは皆さんで議論して、市民の方々が環境に意識を向けられる仕組みづくりができればと思いました。

委員：市民一人ひとりの声が活かせる体制を作ること、それを作る過程にあると思います。また、年代を問わず意見が出しあえるような場所づくりも大切だと思います。

委員：最初は、地球温暖化というテーマが大きくて、何をすべきかわからず戸惑いました。私は生活の中から感じたことを意見として出しているのので、皆さんの見識の広さに驚きました。徐々に皆さんのご意見を伺いながら、自分には何ができるだろうという考え方になっていきました。

委員：もやもやしたものが残りつつ、4年が経過しました。協議会は、どういう立ち位置で、どこまでできるのか、改めて整理しなくてはならないと思っています。そこは課題として、来期に繋げていければいいなと思います。

会長：2期目については、事務局の皆さんと策を練って、できることをやっていきたいと思っています。  
また、来期はSNSなど活用して、市民の皆さんが意見を出せるような仕組みづくりができればと思います。  
振り返りについては以上となります。

## (2) 今年の夏の暑さ対策について

会長：暑さ対策についてご意見いただければと思います。

委員：暑さ対策について、コラムとしてまとめてきました。

看護師が考える伊勢崎の暑さとの共存

1つ、防ぐ。2つ、身体の異常に気付く。

3つ、対処する。

1について、熱中症警戒アラートの情報を知る。危険な時には、不要不急の外出をしない。日傘や水筒を使う。

2について、症状が出る前に身体の不調に気付きましょう。尿の色に気をつけてみましょう。

3について。スポーツドリンク、経口補水液、麦茶などで水分補給しましょう。日陰やクーラーのある場所に避難しましょう。

以上です。

会長：ありがとうございます。他に意見はありますか。

委員：伊勢崎市は緑が少ないので、木を育てるなどして、木のシェルターの機能を見直していきたいです。

会 長：たしかに伊勢崎市は緑が少ないので、何か策を練られるとよいと思います。

委 員：伊勢崎市として、緑に対する改革などがあれば、市民の意識も変わってくるのではないのでしょうか。

委 員：ネイチャーポジティブを目指す一方で、太陽光などの再エネ電力も必要であって、それらは田畑を切り崩すことにも繋がることかと思います。こうした方向性の違いが複雑に絡み合っているため、答えが簡単には出ません。

事務局：協議会の皆様にも熱中症予防シェルターのことなどを発信して、広めていただきたいところです。また、グリーンインフラの整備など、みどりの基本計画に盛り込むことなど検討していきたいと考えております。

会 長：暑さ対策についての啓発を幅広に行っていきたいです。協議会としても発信していきたいです。

委 員：協議会について、SNSでの発信はまだ足りないと感じています。双方向性のある発信を行っていきたいです。

会 長：協議会の中に留まるのではなく、外に向けて発信できればと思います。

### 3 その他

#### (1) グリーンイノベーション群馬戦略2035について

会 長：再生可能エネルギーの最大導入にて記載されています。また、データセンターの電力需要は増加傾向にあります。他県と比べて電気を流す容量が群馬県はまだあるため、再生可能エネルギーは伊勢崎でも新規で導入できると思います。

事務局：太陽光発電について、家屋や事業所の屋根上の発電ポテンシャルは高いと見込んでおります。

委 員：たしかに屋根上が空いているが、耐荷重に耐えられないところも多いという実感があります。また、ペロブスカイトも上手くいっていないと聞いています。技術は進歩していくとは思いますが、注目していかなくてはなりません。

### 4 閉会